

「六・一八浜松大空襲と
平和憲法を心に刻む集会」にお出かけ下さい！

◆今から五七年前、戦争末期の六月十八日夜、浜松市が米爆撃機B29の大空襲を受け、一夜にして焼け野原と化し、死者三、三四九名、負傷者二、三四九名という多大な被害を受けました。
私たち浜松市民はもとより近隣の市町村の方々も、この大空襲を忘れてはならず、二度と再び「政府の行為によって、戦争の惨禍を招くことのないように（憲法前文）」決意を新たにしなければなりません。

◆しかし、小泉内閣と与党は、今国会で「再び国民を戦争に協力させる有事体制を作る法案」を、会期を延長してでも成立させようとし、また、小・中・高などの学校では、国歌「君が代」を卒業・入学式で強制的に歌わせられ、更に中学歴史教科書では「侵略」という言葉が消え始め、教育勅語の全文が掲載されている教科書が、検定に合格するような世の中へと急速に変貌しつつあります。

◆このような悪しき方向へと日本が後戻りしつつあるとき、太平洋戦争中に米陸軍省が制作した「汝の敵日本を知れ」というVTRが手に入りました。当時、米国から見た日本人、及び日本の軍国主義とは、どのようなものであったかを 知る上で大変参考になります。見る価値があると思いますので、一人でも多く御参加下さい。見た上で、共に話し合いました。

「集会の案内」

◆名称：第十五回「六・一八浜松大空襲と平和憲法を心に刻む集会」

◆日時：二〇〇二年六月十八日（火）午後六時半～八時半頃

◆場所：遠州教会（浜松市紺屋町三〇一～十五）

◆内容：ビデオ鑑賞と話し合い

米陸軍省制作ビデオ

「汝の敵、日本を知れ」

：米国から見た日本人と、日本の軍国主義：

＊共催：静岡県西部地区平和遺族会、社会民主党・浜松支部
西遠地域連帯する労働組合会議、浜松市憲法を守る会

二〇〇二年六月九日（日）第四二四回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一～十五